



ネットワークの力で

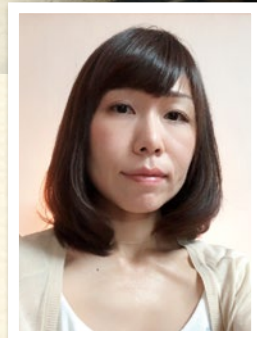
声を上げ続ける。

—子どもたちを守る「ママズ レボリューション」—

福島第一原発事故後、「子どもの未来を守ろう」と自主的に立ち上がった人たちが各地にいました。全国のお母さんたちの活動や原発事故被害にあった地域の情報を伝える雑誌『ママレボ』を創刊した和田秀子さん、自ら立ち上がったひとり。仲間とのつながりに支えられながら、今も「自分にできること」を続けています。



脱原発パレードに全国の人たちと参加（2012年）



和田秀子（わだ・ひでこ）さん

『ママレボ』編集長・ライター。3.11以降、放射能と原発のリスクに危機感を持ち、福島の状況や「子どもを守ろう」と立ち上がった母親たちの取材を始める。2012年に仲間と『ママレボ』を発行。「子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク」「子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト」でも活動。



『ママレボ』11号（2018年4月発売号）の購入については裏面へ

「自分にできること」を

原発事故後に動き始めた人たち

「いても立ってもいられなかった」。2011年の東電原発事故後、そんな思いに駆られてツイッターなどで事故の情報を集めていくうちに、東京に住んでいる和田秀さんは各地のお母さんたちと自然につながっていったといいます。

「事故が起きるまでは、原発や放射能についての知識はほとんどありませんでした。だけど、原発事故が起きてから、チェルノブイリのことを調べたりしているうちに大変なことが起こったんだと気づいた。最初は避難のお手伝いができないかと思って、ツイッターやブログで発信していたんです」

原発事故後、和田さんのように自分で情報を集め、子どもを守るために自分たちでできることをしていこうと活動を始めた人たちが全国各地にいました。

さらに、2011年7月には「全国でつながろう!」という有志の呼びかけによって「子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク」（以下、全国ネット）が誕生。呼びかけから10日間で100を超える団体が登録、700を超える賛同の声がありました。子どもをもつお母さんだけでなく、男性も含めて幅広い世代の人たちが参加。ゆるやかにつながりながら、情報交換や勉強会、行政への訴えかけの協力などを行ってきたのです。

和田さんも全国ネットでつながった仲間たちと、福島からの避難のお手伝い、自分たちの地域での給食や校庭の測定を要望するなど、さまざまな活動をしてきました。

「個人では行政も学校も話を聞いてくれないので、ネットワークで協力して申し入れできることの意義は大きかった。でも、いちばんよかったのは、やっぱり心が折れそうなときに話を聞いてくれて、理解してくれる相手がいることです……。そういうつながりがなかったら、続けてこれなかったかもしれません」

「草の根レベルから

声を上げ続けていきたい」

和田さんは原発事故が起きて数カ月後には、放射能についてのメディアの情報が格段に減っていたことに危機感を感じていました。「草の根レベルでも情報を伝えていかなきゃと思って、2012年4月に『ママレボ』をつくったんです」。ライターが本業の和田さんが編集長となって発行した『ママレボ』は、全国のお母さんたちの活動や放射能についての情報を伝える冊子です。

『ママレボ』とは「ママズ レボリューション（母たちの革命）」の略ですが、「ママ」というのは子どもの未来、弱者を守りたいという、多くの人がもつ『母性』の象徴であって、決して『小さい子どもをもつお母さんだけの問題』のようにとはとらえてほしくない」と和田さん。冊子名には、そうした母性による、「経済第一」で進む社会への対抗という意味も込められています。

原発事故から8年目となった今も、「全国ネット」が開催する勉強会には、出産後に関心をもち始めたという人など、初参加の人が少なくありません。

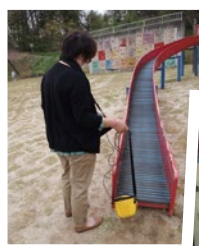
「事故当時のことを知らない若い人たちに、どう伝えていくのかも大事なことです。このまま原発再稼働が進めば、いつまた事故が起きるかわからない。無関心でいれば自分も当事者になるかもしれないということを、もう一度思い出してほしい」

土壌汚染のこと、帰還後の暮らしなど、解決していない課題はたくさんあります。「原発事故の問題はまだ終わっていない」と話す和田さんは、今後『ママレボ』を通じて避難解除が進む地域の状況も伝えていくつもりです。

「最近では、お母さんたちがデモ行進したり、若い人が政治に対して声を上げるといったことが、メディアでも取り上げられるようになりました。放射能に限らず、こうした動きも平和や安全を守ろうという部分では根っこは同じ。テーマは違いますがおかしいと思うことに対して、多くの人といっしょに声を上げ続けていけたらと思っています」



2011年7月に開催した「子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク」キックオフミーティングには全国から約400人が集まりました



『ママレボ』の取材では、実際に放射能測定をしたことも



和田さんは「気持ち伝わるから」と、手渡しの販売も大切にしている

放射能検査状況について

パルシステム自主検査の報告

〈 2018年度の検査数(カッコ内は検出件数) 〉 2018年5月24日現在 不検出率:98.6%

青果	88	牛乳・乳製品	11	飲料水・飲料	22
しいたけ	10 ₍₇₎	肉類・卵	11	その他(加工)食品	350 ₍₁₎
きのこ類 (しいたけ除く)	5	魚介類	49	総計	613 ₍₈₎
米	0	乳幼児用食品	67		

〈 検査結果:2018年5月24日現在 〉 ※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。

青果	2018年度は放射能の検出はありません。
しいたけ	生しいたけ (9.5～22Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	2018年度は放射能の検出はありません。
米	2017年産米の検査は27産地69検体の検査を行いました。日本の稲作を守る会の栃木こしひかり(玄米)を検査したところ、2件 (3.1,4.8Bq/kg)の検出がありました。検出された玄米を白米で再度検査した結果、検出はありませんでした。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出されました栃木こしひかりは、白米でのお届けとなります。
牛乳、肉、卵	産地ごとに定期的に検査しており、今年度放射能は検出されていません。卵は2018年度の検査をまだ行っていません。
魚介類	2018年度は放射能の検出はありません。

乳幼児用食品	2017年度、検出下限値1Bq/kgで検査を行い、冷凍さつまいもスティック (1.3Bq/kg)から自主基準内で検出されました。産直野菜チップス (さつまいも・にんじん)(1.2Bq/kg)から自主基準内で検出されました。
その他食品 (お料理セット)	菌茸類については定期的に検査を行っており、しいたけ (4.3Bq/kg)から自主基準内ですが検出されています。その他のお料理セットで使用されています菌茸類 (えのき茸、マッシュルーム、ぶなしめじ、まいたけ、きくらげ)からの検出はありません。
その他食品 (大豆加工品)	豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、原料で検査を行っているものと、製品で検査を行っているものがありますが、放射能は検出されていません。
その他食品	2017年度、サプリメントのブルーベリー＆ルテイン (8.2Bq/kg)から自主基準内で検出されました。

「ゲルマニウム半導体検出器」による放射能自主検査



測定方法について

パルシステムでは、検出数値が正確な「ゲルマニウム半導体検出器」2台を使用しています。食べられる部分だけを取り出し、細かく切るなど下処理をして、測定容器にできるだけ詰め込み、外部の放射線の影響を受けないように厚い鉛の容器で遮断して、精密な測定を行います。

パルシステムの自主基準(独自ガイドライン)と検出限界について

パルシステムでは食品の残留放射能について**自主基準(独自ガイドライン)**を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、**基準以下であっても、放射能低減を追求します。検査の結果、自主基準を超えるものについては供給いたしません。**また、自主基準(独自ガイドライン)は継続的に見直しを行います。

自主基準(独自ガイドライン)(セシウム134,137の合計) 2014年10月より現行基準(単位Bq/kg)		国の規格基準	
水、飲料茶、牛乳、乳幼児用食品	10	水、飲料茶	10
飲料、乳製品、米		乳児用食品、牛乳	50
青果類(きのこ類除く)、肉類、卵、魚介類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く)	25	一般食品	100
しいたけ	100		

※乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。
※乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの「赤ちゃん・キッズOK食材」掲載商品。

検出限界値

検出限界(ヨウ素131、セシウム134,137それぞれ) 2016年4月1日から新基準に変更(単位Bq/kg)	
乳幼児用食品	1
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3

●フルーツyumyumセットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産(新潟・長野・静岡以東の本州産)
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水産水産物

- 青果は、北海道を除く東日本(新潟県・長野県・静岡県以東の本州17都県)のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査をしています。注文時にあわせて公開しているオンラインの自主検査結果に検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。
- 水産は、北海道から関東の沿岸近海のエリアを重点地域として、原料切り替わりをした月に検査を行っています。
- 検査は、ご注文にあわせて実施していますが、冷蔵・常温の各加工品は年1回、冷凍食品は1年半に1回計測しています。

- 週次の「放射能関係のお知らせ」はホームページで掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城・パルシステム福島・パルシステム静岡・新潟とさめぎ生協
月～金曜日:9時～20時/土曜日:9時～17時
0120-868-014
※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨 甲府センター ☎ 0120-28-5891 西桂センター ☎ 0120-32-1061 一宮センター ☎ 0120-21-9898
パルシステム群馬 高崎センター ☎ 0120-60-5118 渋川センター ☎ 0120-36-3315 東毛センター ☎ 0120-63-3735
※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。

もっと知りたい方へ!① ～表紙登場の和田秀子さんが編集長の情報誌～

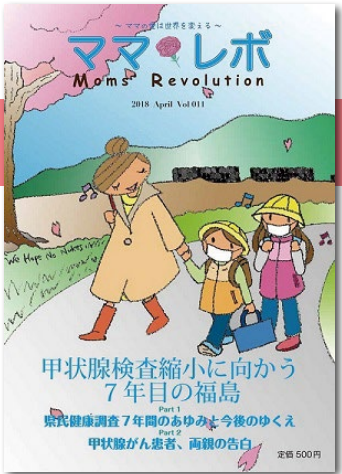
『ママレボ』11号(2018年4月発売号)
A4判24ページ、発行:ママレボ出版局

～ママの愛は世界を変える～



誌面より

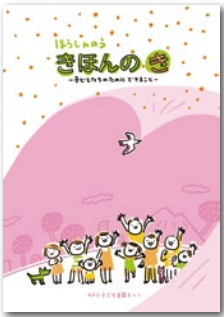
- ◆この人に聞く◆
“セシウムボール”による内部被曝リスク
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授 森口祐一さん
- ◆特集◆
甲状腺検査縮小に向かう7年目の福島
Part1 県民健康調査7年間のあゆみと今後のゆくえ (ジャーナリスト 藍原寛子)
Part2 甲状腺がん患者、両親の告白 (『ママレボ』編集長 和田秀子)



※購入については、「ママレボ」ホームページをご覧ください。
「ママレボサポーター」(定期購読者)も募集しています。
<https://momsrevo.jimdo.com/>
ママレボ 子どもたちを守るう 検 索

もっと知りたい方へ!②

～表紙で紹介した「全国ネット」の冊子～



『ほうしゃのきほんのき』

A5判16ページ、企画・発行:特定非営利活動法人 子ども全国ネット
放射能についての基本とその対策を、専門家の先生方の監修のもと制作。かわいいイラストと簡素な説明で、初めての方にわかりやすく、すぐ役に立つ内容です。
※購入についてはNPO法人子ども全国ネット、ホームページの冊子紹介ページをご覧ください。
<https://www.311kihonnoki.com/>
311kihonnoki 検 索